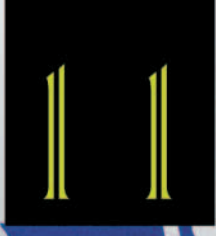


ウェーブ三重大

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

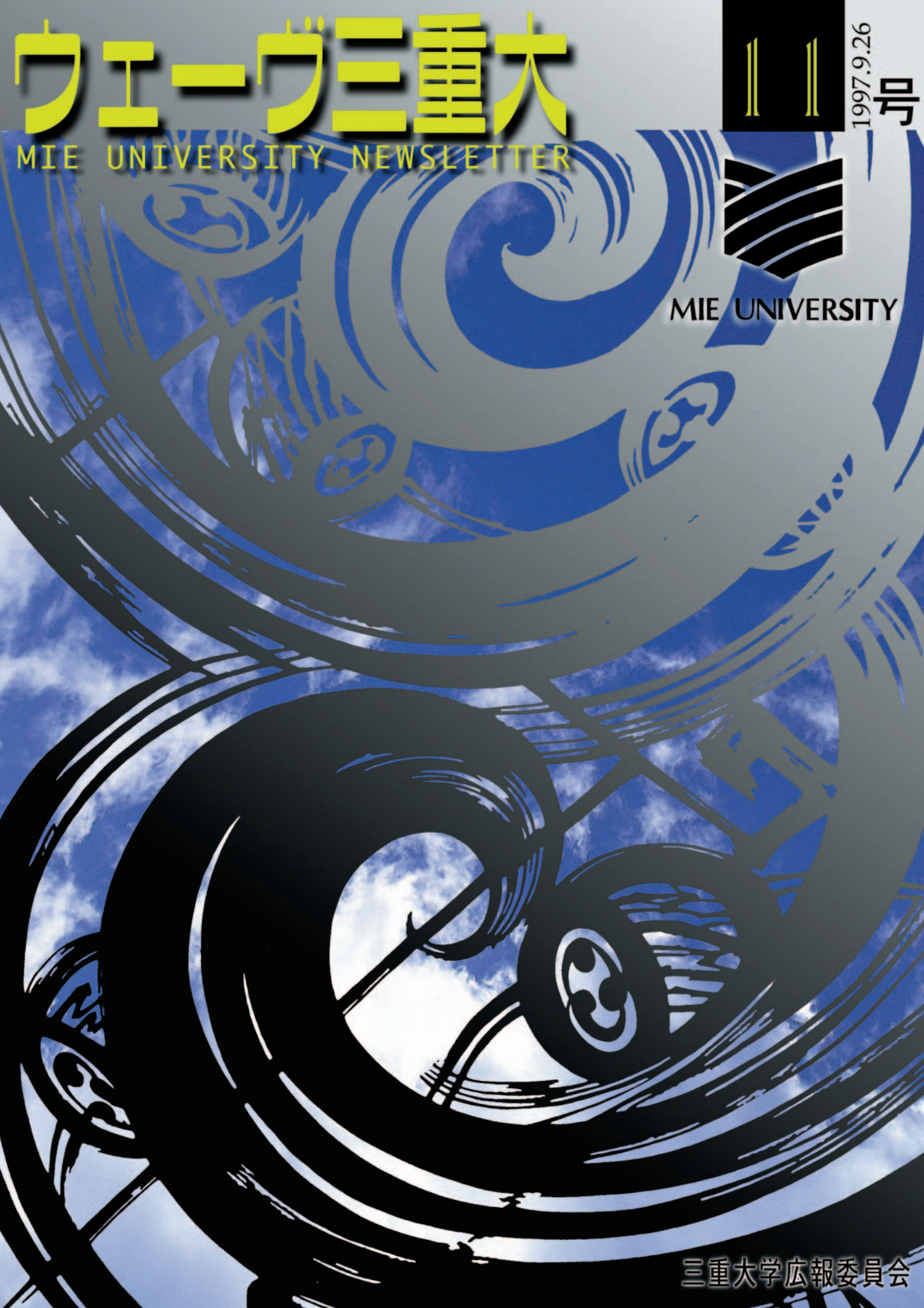


1997.9.26

号



MIE UNIVERSITY



三重大学広報委員会

表紙イラストレーションタイトル『雷』

表紙デザイン

岡田 博明

(三重大学教育学部助教授)

このイラストレーションは、三重大学のある三重県に古くから伝わるテキスタイルパターンの『伊勢型紙』をモチーフにして制作しました。

この型紙のタイトルは『雷』で、明治初期に制作された、非常に力のあるパターンです。

The cover page design is entitled : "THUNDER",

Designer : Hiroaki Okada

(Associate Professor, Faculty of Education, Mie University)

The cover page illustration was produced by using as a motif a traditional textile pattern called "Ise Pattern". This is a pattern typical to Mie Prefecture where Mie University is located.

Produced at the beginning of Meiji Era, this pattern which is entitled "THUNDER", is known to be a very powerful one.

目 次

Contents

1. 第38回日本小児血液学会
38th Annual Meeting of the Japanese Society
of Pediatric Hamatology 櫻井 實1
Minoru SAKURAI
2. 第90回日本薬理学会近畿部会
The 90th Kinki Branch Meeting of the Japanese
Pharmacological Society 田中利男3
Toshio TANAKA
3. 第1回アジア鼻科学シンポジウム
The First Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR) 坂倉康夫5
Yasuo SAKAKURA
4. 第3回・3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム1996
世界におけるアジアの役割——人口・食糧・エネルギー・環境——
The 3rd Tri-University International Joint
Seminar & Symposium 1996
The Role of Asia in the World
——Population, Food, Energy and Environment—— 加藤征三7
Seizo KATO
5. 第56回農業機械学会年次大会
56th Annual Meeting of the Japanese Society of
Agricultural Machinery 市川眞祐9
Masasuke ICHIKAWA
6. 第3回反応性中間体に関する三重国際ワークショップ11
The Third Mie International Workshop on Reactive Intermediates
7. 第1回日韓ジョイントルーメンシンポジウム11
——ルーメン研究の現在と未来——
The 1st Joint Symposium of Japan and Korea on Rumen Metabolism
and Physiology
——Present and Future of Rumen Research ——
8. 第4回・3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム199711
世界におけるアジアの役割 ——人口・食糧・エネルギー・環境——
The 4th Tri-University International Joint Seminer & Simposium 1997
The Role of Asia in the World
——Population, Food, Energy and Environment——
9. 三重大学概要12
Outline of Mie University

英文は日本語の要約です。

The English is a condensed version of the Japanese.

第38回日本小児血液学会

The 38th Annual Meeting of the Japanese Society of Pediatric Hematology

平成8年9月5日と6日の二日間に亘り、第38回日本小児血液学会が三重大学小児科の主催で三重県志摩郡合歓の郷で盛大のうちに行われた。参加者は全国各地の小児血液学、小児白血病の専門家800名であった。本会は開催が三重県ということで国立公園の伊勢湾に面するリゾート地を選び折角の遠来の参加者には学会のみならず思う存分リゾートでゆっくりした気分を味わって頂きたいとの配慮で行った。志摩の地は参加者にとって名古屋や大阪からさらに約3時間を要したが、多くの参加者はあらかじめ忙しい中日程をとってもらった様であった。主催者側は台風を心配したが幸い前夜祭の小雨のほか天候に恵まれた。学会のプログラムについても従来の本学会の伝統を破ったもので、開催されるまでは会員の多少の批判を受けたが、結局は案ずるより易く成功裡に終わることができた。参加者からも好評を受け、大袈裟ではあるが本学会の将来の在り方にも少なからず影響を与えたものと確信している。今回の学会プログラムとしては一般演題を殆んどポスター発表として充分時間をとって発表者と参加者の間で自由な活発な討議ができるように

し、各ポスターセッションの座長が一般演題の発表内容の解説と問題点を指摘して頂くことにした。従って座長は発表のスライドの用意も含めて開催までに発表者との間に事前に周到な連絡を必要とし、自らも大いに勉強することを強いられた。座長には大変な負担となったが、参加者にはポスターセッションによる発表形式の欠点を補うことができ、これも好評を得た。主催者側より一般演題の中から発表演題を選び、夜8時30分よりフリーディスカッションを6ヶ所



サテライトシンポジウム
The Satellite symposium

The 38th Annual Meeting of the Japanese Society of Pediatric Hematology was held on September 5 and 6, 1996 in a resort place of Ise Shima National Park. Approximately 800 members from all over the country attended, and enjoyed both the scientific event and the beautiful sea side landscape.

The program of this meeting was precisely discussed and scheduled by the pediatric staffs of Mie University and it was approved by the committees of the Pediatric Hematology Society. Because of a rather untraditional set up of the program, the members were initially anticipated but, it turned out to be a bigger success. All of the free papers were presented in the poster session and the chairman of each section had to enlighten the contents of each paper and give comments within 30 minutes of the limited time. Six free discussion sessions were started after dinner until midnight, where the chairman should use his skillfulness for the attendants to be able to discuss and exchange their clinical and scientific matters.

As major event of this meeting, two special lectures were given focusing on the future of pediatric hematology by invited former professor in the Pathology Department of Mie University, Dr. Seno and Professor S. Inoue from Michigan University, USA. Two educational lectures were shared conclusively on to the up to date progress in platelets and coagulation. For the kick off of this meeting, the Satellite Symposium was held on the forthcoming recombinant cytokine drug, thrombopoietin for the first time at the society meeting. In the after-

設置し、酒やビールを飲みながら時間の制限をつけず深夜まで討論してもらった。ここでは普段学会会員が臨床現場で直面している種々の問題や苦勞を心ゆくまで話し合うことができたと思われた。特に白血病の治療や骨髄移植に係わる会員はこのユニークな場を利用して会員間の交流を深めることができた。学会の主たるスケジュールは特別講演、教育講演であった。特別講演は元三重大学病理学教授であった岡山大学名誉教授妹尾左知丸先生と米国より井上進先生をお願いした。妹尾先生は80才近い高齢になってもまだ active に研究を続けておられる方で、先生の若い時代からの経験を中心に研究の発想と自ら切り開く実践的研究について「血球に導かれて」と題して講演を受けた。参加者は血球のみならず、生体に起こる現象に対し広い角度の学識や認識が必要であることに深い感銘を受けた。井上進教授は米国の小児血液学会や腫瘍学会の現状に関して報告し、小児科医の専門性の高度化が必ずしも医療に貢献とはならなかったものとし日本の高度専門性の志向にも警告を与えるとともにバランスのとれた広い視野に立つことができる小児科医が育つよう配慮が必要と述べられた。主催者側もこのこと

に気づいていたので本学会では血液学の中でも比較的会員になじみの少ない血小板や凝固に関する二つの教育講演を行った。一つは本学第二内科の和田英夫講師に「血小板：臨床的研究の進歩」と題して会員にわかりやすく講演をお願いした。さらに朝食時にモーニングカンファレンス、昼食時にはランチョンセミナーを設け計7名の方に講演を依頼した。本学第二内科珠久洋教授は「腫瘍抗原の分析から治療」と題して腫瘍免疫の遺伝学的アプローチについて講演を頂いた。会場は溢れるばかりであった。学会前日は小児血液学会としては初めて血小板増殖因子、トロンボポイエチンに関するサテライトシンポジウムを行った。学会オープニングパーティーは屋外で行う予定であったが小雨の為、室内で行った。日本の若手のトップの踊り手の入交恒子さん一行8名が多忙の中参加して頂き、参加者は深夜までフラメンコダンスとスペインの歌にとりつかれた。午後は全て夕食すぎまで学会プログラムを中止し、志摩のリゾート地で球技や海を楽しんだ。



フリーディスカッション
Free Discussion



ポスター展示
Poster presentation

noon the official scientific activity was suspended until the evening and many attendants went for sight-seeing or to the sea. The round-trip on the board around the bay was so refreshing. After all, this 38th meeting was an unexpected meeting, but our staffs of the Pediatric Department enjoyed in holding this unusual scheme of this annual big event.



筆者プロフィール

櫻井 實

医学部教授 (医学博士)

1936年生

Profile

Minoru SAKURAI

Professor, Faculty of Medicine

(Doctor of Medicine)

Born in 1936

第90回日本薬理学会近畿部会

The 90th Kinki Branch Meeting of the Japanese Pharmacological Society

昭和31年10月28日の第12回以来、約40年ぶりに三重の地で第90回日本薬理学会近畿部会をお世話させていただくことになり、学内外の皆様や教室員の多大のご協力を得て準備を進めてまいりましたが、ようやく平成8年10月25日、津市にある三重県総合文化センターで開催することができましたので、ご報告致します。総演題数95題、総参加者数452人となり90回を数える近畿部会としては最大の規模となりました。特に、今回企画しましたシンポジウム「細胞シグナリングと遺伝子発現」におきましては予想以上の人々の参加と活発な討論があり、今後の薬理学における新しい潮流を感じることができました。

すなわち、国立小児医療研究センター分子細胞薬理学の辻本豪三先生他は、受容体細胞内局在可視化技術とその応用と題して発表され、Green Fluorescent Protein 標識受容体の細胞内局在の同定、更に各種薬理学的操作による細胞内局在の変化を経時的にモニターすることが共焦点レーザー顕微鏡を用いることにより成功したと報告された。京都大学医学部薬理学の成宮周先生は、低分子量G蛋白質 Rho の細胞内シグナリングと題して、Rho の作用発現のメカニズムを示された。名古屋大学医学部薬理学の横倉久幸先生他はカルモジュリンキナーゼファミリーの蛋白質リン酸化による活性調節の演題で、CaM Kinase 分子の多様性とそれぞれのリン酸化を介した活性調節機構を明らかにされた。神戸大学医学部薬理学の春藤久人先生他は、カルシニューリンを介する細胞シグナリング-分裂酵母変異体を用いた解析について、名古屋大学医学部解剖学3の萩原正敏先生他は転写因子 CREB・ATF ファミリーのリン酸化依存的調節機構を、

We had the 90th Kinki Branch Meeting of the Japanese Pharmacological Society in Tsu City, Mie Prefecture, on October 25, 1996. A total of 95 oral presentations and 452 participants were held, which was the largest meeting ever in the long history of the Kinki Branch Meeting from 1949. The last meeting (the 12th Kinki Branch Meeting) in Tsu City was held on October 28, 1956.

In this meeting, we organized special symposium on Cell Signaling and Gene Expression. The program of the symposium was as follows. (1) Opening remarks by Professor T. Tanaka (President of this meeting, Mie University), (2) Intracellular localization of receptors by Dr. G. Tsujimoto et al. (National Children Hospital), (3) Intracellular signaling of low molecular weight GTP binding protein Rho by Professor S. Narumiya (Kyoto University), (4) Regulation of calmodulin-kinases by protein phosphorylation by Dr. H. Yokokura et al. (Nagoya University), (5) Cell signaling by calcineurin by Dr. H. Shunton et al. (Kobe University), (6) Protein phosphorylation-dependent regulation of transcription factor CREB/ATF family by Dr. M. Hagiwara (Nagoya University), (7) Tolerance and physical dependence of morphine and a single-stranded CRE binding protein by Dr. Kuo C-H. et al. (Osaka University), (8) Signal transduction and gene expression in vascular smooth muscle by Dr. Y. Inada et al. (Mie University), (9) Role of MAP kinase family in balloon injury-induced vascular intimal



第90回日本薬理学会近畿部会のスタッフ
Staff of 90th Kinki Branch Meeting of Japanese Pharmacological Society

大阪大学医学部薬理学の郭哲輝先生他はモルヒネ耐性・依存形成と一本鎖 CRE 結合蛋白質について発表された。三重大学医学部薬理学の伊奈田宏康先生他は、血管平滑筋のシグナル伝達と遺伝子発現機構と題して、プロテインキナーゼCによるシグナル伝達は血管平滑筋の収縮反応を調節するだけでなく、数多くの遺伝子発現制御に関与しその一部は転写調節因子QMのリン酸化反応を介することを明らかにされた。大阪市立大学医学部薬理学の金勝慶先生他は、バルーン障害後の血管内膜肥厚にMAPキナーゼファミリーの活性化が重要な役割を果たしており、AT₁受容体がこの活性化の一部関与していることを示された。徳島大学薬学部薬理学の天野雄一郎先生他は血管におけるNO産生系のシグナル伝達について、tyrosine kinase, protein kinase C, Ca²⁺/CaM, NF-κ BはいずれもiNOS mRNAの発現までに関与しており複数のシグナル伝達系がiNOS誘導に関与し、NO産生が制御されていることを報告された。以上、このシンポジウムにおいて細胞シグナリングと遺伝子発現の分子機構が解明され、その成果は新しい治療薬の標的分子を明らかにしつつある。さらに、これらの薬理学研究とゲノム医学の統合により新しいゲノム薬理学時代の到来を示した。

他の3会場でも同様の盛り上がりがあり、近畿部会の新しいあり方として会員から後日好評を得られたことから、ご協力いただいた学内外の皆様には少しは報いることができたのではないかと存じております。また、前日には同じ会場でも中部薬理談話会をも開催し、活発なシンポジウムにすることができました。これらの会が無事盛会裡に終わりましたのも、運営にあたりご尽力いただきました本学附属病院薬剤部小島教授をはじめ、多くの学内の先生方にも参加していただき、会を盛り上げていただいたことに、お礼申し上げます。また、この会の写真などの記録は教室のホームページ (<http://pharma.medic.mie-u.ac.jp/>) にありますので、一度ご覧になっていただければと存じます。なお、著作権の関係上プログラムや抄録の掲載は学会本部から許可されませんでしたのでご了承下さい。



学会会場
The Meeting Place of Society



学術評議員会
The Science Council

thickening by Dr. S. Kim et al. (Osaka City University), (10) Signal transduction of vascular NO producing system by Dr. Y. Amano et al. (Tokushima University).

This symposium elucidated the role of molecular mechanisms in cell signaling and gene expression underlying human diseases that have dramatically increased the number of protein targets available for potential drug treatment. Integration of these pharmacological findings with genome medicine would bring a new era of genome pharmacology.



筆者プロフィール
田中 利男
医学部教授 (医学博士)
1950年生

Profile
Toshio TANAKA
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1950

第1回アジア鼻科学シンポジウム

The First Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR)

1996年11月28～30日にスズカサーキットホテルにおいて第1回アジア鼻科学シンポジウム (The First Asian Research Symposium in Rhinology ARSR) を主催しました。基礎医学は臨床医学の骨格となる分野であり、臨床医学の発展に不可欠なものです。多くのアジア諸国では基礎医学の発達は未だ十分ではありません。幸い日本は基礎医学でも目覚ましい発展を遂げ、この結果、臨床医学も高い水準に達しています。この様に基礎・臨床医学で高レベルを有し、経済的にも発展を遂げた日本が、アジア諸国の基礎医学の発展に寄与することは、日本のアジアに対する貢献の一助となり、またその結果アジア諸国との友好が促進されると考えました。

鼻疾患はアジア諸国において最も普遍的な疾患であります。しかし、多くのアジアの国々では貧困から公衆衛生、特に飢餓による栄養問題、生命を直接脅かす感染症、寄生虫問題などに医学の主力が注がれています。未だ、鼻疾患まで手が回らないのが現状でしょう。多くの国で、鼻科学会の結成もなされていず、鼻科学専門家も極めて少なく、未だ鼻科臨床も十分に普及していない広大な地域が残されています。そこで、アジア諸国における鼻科学の進歩と臨床の向上を促すために、基礎研究を主題としたシンポジウムを企画しました。

シンポジウム組織

名誉会長：奥田 稔 (日本医大名誉教授)

会 長：坂倉康夫 (三重大)

組織委員：馬場駿吉 (名市大)、古川 惲 (金沢大)、石川 哮 (熊本大)、形浦昭克 (札幌医大)、今野昭義 (千葉大)、茂木五郎 (大分医大)、森山 寛 (慈恵医大)、大山 勝 (鹿児島大)、



第1回アジア鼻科学シンポジウムのシンボルマーク
The Symbol of the First Asian Research Symposium in Rhinology

The First Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR) was held in Suzuka, Mie, Japan from November 28 to 30, 1996.

The purpose of the symposium was to discuss recent progress in the field of the basic sciences in rhinology. It was hoped that the symposium would encourage international cooperation in this field and stimulate rhinologists in Asian countries.

Nasal and paranasal diseases are the principal and universal disorders in Asia. The basic science in medicine in Asia, however, has not been as developed as in the Western countries. Many patients have still been suffering from these diseases in unexplored areas in many Asian countries. Our goal was to provide a forum for researchers in rhinology in Asia and encourage new studies being conducted in Asian countries and stimulate



第1回アジア鼻科学シンポジウム会場風景 (鈴鹿サーキットホテル)
The place of the First Asian Research Symposium at Suzuka Circuit Hotel

高坂知節（東北大）、海野徳二（旭川医大）

国際委員：Bunnag, C(タイ)、Fang, PW(台湾)、Jeon, SY(韓国)、Jin, CS(中国)、Min, YG(韓国)、Muntarhorn, K(タイ)、Vincente, GM(フィリピン)、Yuen, PO(香港)

基調講演：大山 勝；鼻悪性腫瘍の分子生物学、古川 侃；ラット嗅覚神経形成と加齢、Bunnag C；タイにおける鼻アレルギーの疫学とその特徴、今野昭義；鼻アレルギーにおける鼻粘膜過敏症、石川 哮；スギ花粉の抗原ペプチドに対するT細胞応答、Jin CS；鼻粘膜の正常構造、坂倉康夫；粘液繊毛機能、Min YG；薬物および外科治療後の副鼻腔粘膜の形態学的変化、形浦昭克；サイトカインネットワーク、茂木五郎；鼻における免疫学的防御機構、高坂知節；鼻腺の分泌機序、Jeon SY；ラット鼻粘膜のNADPH-diaphorase 陽性神経の分布

事務局長：間島雄一

本シンポジウム期間の鈴鹿は寒波に襲われましたが、12の基調講演、74の一般演題があり、熱気に溢れたシンポジウムとなりました。51名の韓国からの参加者を始め、日本を含め11ヵ国、遠くはエジプト、サウジアラビアの中近東、インド、フィリピン、タイ、香港、台湾、中国、アメリカから200名弱の鼻科学者に参加を頂きました。

アレルギーの最新の進歩、サイトカインネットワークの二つのシンポを始めとして内容的にも極めて高レベルの発表と、それに対する熱心な討議がなされました。われわれ日本人が苦手とする英語も若い人には巧い人たちが多くなり、心強く感じました。それにもまじり、韓国の若者は英語も巧く、積極的に発言し、彼らの意気込みの大きさに少々圧倒されました。

全員がスズカサーキットホテルで宿泊し、2度の昼食と歓迎会、親善パーティ、さよならパーティの3度の夕食を共にして、合宿気分でも和気藹藹と過ごしました。鼻科学の研究者であるという共通の基盤がある上に、参加者の平均年齢も若く暖かな雰囲気でも交流の輪を広げることができました。

このシンポジウムは今後各国の持ち回りで例年行われることが決議されました。アジアにおける鼻科学の基礎と臨床の発展にこのシンポジウムが果たす大きな役割を確信して会を終えることができました。

三重大学国際交流基金をはじめとする多方面からのご支援に感謝致します。



シンポジウムを支えた関係者（シンポジウム終了後）
The persons who managed the symposium at the farewell party

new investigators.

About 200 rhinologists got together from 11 different countries. I believed that everybody left this symposium with the feeling that it has been scientifically very rewarding. I am sure that continuous communication and collaboration will give us many useful strategies to treat many serious diseases in the rhinologic field. I also believed that all the participants have enjoyed the symposium and tighten their friendship.



筆者プロフィール

坂倉 康夫

医学部教授（医学博士）

附属病院長

1935年生

Profile

Yasuo SAKAKURA

Professor, Faculty of Medicine

(Doctor of Medicine, PhD)

Director of University Hospital

Born in 1935

第3回・3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム1996

世界におけるアジアの役割

——人口・食糧・エネルギー・環境——

The 3rd Tri-University International Joint Seminar & Symposium 1996

The Role of Asia in the World

——Population, Food, Energy and Environment——

本国際交流事業は三重大学（MU）が一般協定を締結しているアジアの2大学、すなわちチェンマイ大学（CMU）（タイ）と江蘇理工大学（JUST）（中国）に、3大学の学生および若手教官を主体としたジョイント・セミナー&シンポジウムを開催しよう、と呼びかけ、その賛同をえて第1回を1994年10月、三重大学で開催して以来、今回で第3回になった。初回を伊藤信孝教授（生物資源学部）と共に、日程やテーマから資金獲得まで文字通りすべてを手探りと手作りで無我夢中で切り盛りしたが、幸いに国際教育協会と三重大学交際交流基金の予算措置をはじめ、生物資源と工学部の両学部の先生・事務官・学生、学長先生と本部関係者、他学部の先生方、等のご理解とご協力をえて無事終えることができた。このとき、CMUとJUSTから21世紀を担う若い学生達を各々10名ずつ招き、草の根の実質的な国際交流の実を挙げる事ができたことが大好評となり、第2回を工学部創立25周年記念のCMUで、第3回を三重大学との協定締結10周年となるJUSTで開催したい旨の、また、CMUとJUSTとの間でも一般協定を締結し、文字通りトライアングルにしよう旨の意志表明が各大学からなされ、とても感激したことを昨日のように想い出す。さらに、次回から渡航費を派遣側が、滞在費等を受入側が負担することも了解された。

このような経過で第2回をCMUで開催されたが、三重大学からは教官2名、事務官3名、学生15名の20名が参加した。これについての詳細は伊藤教授がウェブ三重大8号に報告されている。

さて、第3回は1996年10月21日から25日まで中国鎮江市の江蘇理工大学で開催された。三重大学から19名（教官2名、事務官1名、学生16名）、チェンマイ大学から18



演芸パーティでの一コマ
Snapshot at entertainment party with international friends

The 3rd Tri-University International Joint Seminar & Symposium 1996 was organized and hosted by Jiangsu University of Science & Technology (JUST), Zhenjiang, China, in October 21-25, 1996, with the special theme "Role of Asia in the World—Population, Food, Energy and Environment—". This international event was originally initiated by Prof. N. Ito, Faculty of Bioresources, and I, Faculty of Engineering, Mie University (MU) in order to encourage young students and offer them the opportunity of thinking and discussing on the above common and essential global issues with colleagues from different countries. Since this first trial was successfully completed, the 2nd and 3rd Tri-University International Seminar & Symposium were held in turns at Cheng Mai University (CMU), Thailand, in 1995 and Jinagsu University of Science & Technology, China, in 1996, respectively.

This report describes the 3rd event which was held to celebrate the 10th anniversary of the general agreement for promoting academic activities between MU and JUST. The MU delegation being composed of 2 professors, 1 officer and 16 students sincerely enjoyed all the events listed in the program and appreciated the fruitful exchanges with all the members par-



江蘇理工大学正門での記念撮影
Memorial photo in front of the main gate of JUST

第3回・3大学セミナー&シンポジウムの事業概要

日程	行 事
10/17(木)	津→関西空港→上海→北京
10/18(金)	万里の長城・明十三陵見学
10/19(土)	天安門・故宮博物院見学、舞踊観賞
10/20(日)	清華大学訪問、頤和園見学、北京→南京→鎮江
10/21(月)	開会式、記念撮影、基調講演、セミナー・シンポジウム、歓迎パーティ
10/22(火)	武村学長特別講演、基調講演、セミナー・シンポジウム、キャンパス見学、演芸パーティ
10/23(水)	南京市見学、バンケット
10/24(木)	基調講演、セミナー・シンポジウム、製缶工場見学、金山公園散策、フェアウエルパーティ
10/25(金)	基調講演、閉会式、次回打合会議、鎮江→上海(汽車)
10/26(土)	上海見学、中国科学院セラミック研究所訪問、歓迎会
10/27(日)	上海→関西空港→津

名(教職員6名、学生12名)、江蘇理工大学から約30名(実行委員を含む教職員15名、学生15名)が参加し、王徳明副校長自ら大会委員長を果たされた。参加者全員がキャンパス内の同じゲストハウスに寝食を共にした。主な行事は別紙のよう



第3回・3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウムの開会式
Opening Ceremony of the 3rd Tri-University International Joint Seminar & Symposium 1996

うに盛り沢山で、その熱烈歓迎に正に感激するばかりであった。7件の基調講演、38件の一般講演の他、協定10周年で招待訪問された武村学長・澤工学部長・高橋生物資源学部長の特別講演がなされたことを特筆したい。

参加学生は英文の論文作成と英語による発表・討論が義務づけられ、大任を果たした後の満足感と英語力の無さに一段と勉学の意欲を燃やす意識変革には驚嘆した。中国での少なからぬカルチャーショックには自分達の恵まれた立場を顧み、異国の学生との友情には別れ際の号泣でその意義深さを知る、など学生達は当初のもくろみ以上の実に効果的な国際交流の実を実践してくれた。本セミナーを体験した卒業生達が真の国際人として活躍してくれることを夢みつつ、それを確信するようになった。

学生を主体とした本国際交流事業はユニークで注目され、他大学からの問い合わせも多い。第4回は本年11月24日から29日まで再び三重大学がホストとなって開催される。今回は時期を芸術祭に合わせるとともに、タスマニア大学とミシガン州立大学にも呼びかけアジアから環太平洋へと視点を広げたセミナーを企画している。お気楽に参加されますよう、心から歓迎いたします。

participating from CMU and JUST.

All the students from MU presented their research papers and answered the questions from floor in English, an experience from which they will surely benefit in the future.

This time, the President of Mie University, Prof. Y. Take-mura, the Dean of the Faculty of Bioresources, Prof. T. Takahashi, and the Dean of the Faculty of Engineering, Prof.

G. Sawa were specially invited to sign the general agreement, and they had a great honor to give a special lecture to all the participants, respectively.

The next 4th Tri-University International Seminar & Symposium 1997 will be prepared by the Organizing Committee chaired by the Vice-President of Mie University, Prof. M. Senoo, in November 24-29, 1997. We would like to invite all the members of Mie University, especially young students, to this international inter-course event.



筆者プロフィール

加藤 征三

工学部教授(工学博士)

1943年生

Profile

Seizo KATO

Professor, Faculty of Engineering

(Doctor of Engineering)

Born in 1943

第56回農業機械学会年次大会

56th Annual Meeting of the Japanese Society of Agricultural Machinery

第56回農業機械学会年次大会が平成9年4月1日～4日に亘って三重大学生物資源学部において開催されました。三重大学において農業機械学会の全国大会が開催されるのは、昭和46年（1971）の第30回大会以来の26年ぶりになります。本大会に参加して頂いたのは、全国の大学の農学部系（一部工学部）、国公立研究機関、企業の農業機械の研究者および技術者であります。参加人数（登録者）は401人でした。主な日程と行事は次の通りでした。

4月1日 学術シンポジウム

4月2日 講演会、総会、展示会、アクティ21ポスターセッションおよび研究会、各種委員会、懇親会

4月3日 講演会、国際ワークショップ、アクティ21ポスターセッション、展示会

4月4日 見学会

学術シンポジウムは、「農業機械技術者の人材育成と大学教育のあり方」なるテーマで、国立農業試験場（1名）および企業（2名）の講師からの講演と問題提起がなされ、3時間に亘って熱心に討論が行われました。参加者は56人でした。

講演会は、従来の発表形式を一新し、研究対象と研究方法とを2大別しました。まず、研究対象に属するものとしては、機械システム、耕耘・整地・水、ポストハーベスト、栽培システム・作業体系、動植物システム、ヒューマンファクター、エネルギー関係、その他（教育、国際、政策等）に分けました。研究方法に属するものとしては、ロボティクス、植物バイオ、環境関連技術、マイクロマシン、電子情報技術、計測・制御、シミュレーション・モデリング、その他を入れました。発表件数は188件、講演会場は6会場で行い、各会場にはOHP、



展示会
Exhibition



学術シンポジウム
Scientific symposium.

56th Annual Meeting of the Japanese Society of Agricultural Machinery was held in the Faculty of Biore-sources, Mie University on 1st-4th April 1997. This was the first time in 26 years since the 30th Annual Meeting organized in Mie University in 1971.

A scientific symposium was carried out on a theme about "Training of agricultural machine engineers and university education."

The scientific program was divided in two sections dealing respectively with the research techniques and the research methods. There were in total 188 presentations on machine system, post-harvest, environmental related technology, measurement control, and others.

A poster session (Acty 21) was organized on agricultural processing, physical properties, autonomous vehicles, machine systems and numerical analysis, as well as a show on the measurement and control apparatus for agricultural machine research.

A banquet was performed splendidly in the Sansui small hall.

An international workshop was performed in English focusing on JICA-related foreign members.

In the forum, the creditable professor of Mie University, Dr. Koji Wada, gave a lecture on a theme "About the pearl culture / internationalization time in Japan."

Tour programs included course the Ise Courses and the Ise Bay Course, which were exceptional and highly appreciates experience for all the participants.

スライド、ビデオを用意しました。

アクティ21ポスターセッションは、農産加工・物性、自律走行、機械システムの3部門の計8件でした。アクティ21研究会は、農産加工・物性、自律走行、数値解析フォーラムの3部門において計8件の発表が行われました。

展示会は、農業機械研究のための計測・制御機器（一部出版物）を中心に2日間に亘って行いました。入場者は延べ900人になりました。

懇親会は三重大学講堂小ホールで行いました。参加者は約150人に達し、なおも参加希望者がいましたが、入り切れないことも予想されたため一部の方々にはお断りしました。三重の郷土料理・地酒コーナーを設け、またアトラクションとして「高虎太鼓」を入れ、参加者には三重の味を十分満喫して頂いたと思っております。

国際ワークショップは、JICA関係の外国人を中心に英語で発表が行われました。参加者は86人でした。

フォーラムは、「日本の真珠養殖・国際化時代を迎えるにあたって」なるテーマで、養殖真珠研究の第一人者である元三重大学生物資源学部教授和田浩爾博士の講演を行いました。折しもアコヤ貝の壊死が社会問題となっていることもあり、約150名が熱心に拝聴しました。

見学会は、A、Bの2つのコースで行いました。Aコースは、神宮徴古館・農業館、伊勢神宮特別参拝、ミキモト真珠島を見学しました。農業館や真珠島では、外国からの参加者たちも日本の伝統的な1次産業の姿を熱心に見入っておりました。Bコースは、練習船勢水丸による伊勢湾クルージングを実施しました。参加者は、滅多に経験できないことでもあり、当日湾内が非常に風でいたため甲板で車座になってビールを飲みながら大いに盛り上がりました。途中、2回底曳き網の実演を見学しました。

第56回農業機械学会年次大会は、多くの学内の教職員や学生を始め、学会員、関係企業および団体の絶大なるご援助を頂き、無事終了することが出来ました。ここにお世話になりました方々に深甚の謝意を表します。



懇親会
Social



アトラクション
Attraction



筆者プロフィール

市川 真祐

生物資源学部教授（農学博士）

1939年生

Profile

Masasuke ICHIKAWA

Professor, Faculty of Bioresources
(Doctor of Agriculture)

Born in 1939

第3回反応性中間体に関する三重国際ワークショップ
The Third Mie International Workshop on Reactive Intermediates

日時：
1997年11月28日～1997年11月30日

場所：
三重大学講堂小ホール
津市上浜町1515

招待講演者：
アメリカ、ドイツ、オーストラリア、ポーランド、
イスラエル、日本から計10名

参加費：5,000円

代表者：
三重大学工学部教授 富岡秀雄

問い合わせ先：

〒514 津市上浜町1515
三重大学工学部分子素材工学科
電話：059-231-9416 Fax：059-231-9471
E-mail：tomioaka@chem.mie-u.ac.jp

Date：
28-30 November 1997

Venue：
Mie University
1515 Kamihama, Tsu, Mie 514 Japan

Presentators：
10 Invited Speakers from USA, Germany, Austria, Poland,
Israel and Japan

Open to the Public：Registration Free；5,000 yen

Cordinator：
Hideo TOMIOKA
Professor, Faculty of Engineering, Mie University

Office：
1515 Kamihama, Tsu, Mie 514 Japan Department of Ma-
terials Chemistry, Mie Univ.
Phone 059-231-9416 Fax 059-231-9471
E-mail：tomioaka@chem.mie-u.ac.jp

第1回日韓ジョイントルーメンシンポジウム
ルーメン研究の現在と未来
The 1st Joint Symposium of Japan and Korea on Rumen
Metabolism and Physiology
Present and Future of Rumen Research

日時：
1997年10月2日～1997年10月4日

場所：
賢島研修センター〈プラージュ〉
三重県志摩郡阿児町

講演者：
日本20、韓国13、連合王国1、その他4

参加費：20,000円

代表者：
三重大学生物資源学部教授 星野貞夫

問い合わせ先：

〒514 津市上浜町1515
三重大学生物資源学部助教授 小林泰男
電話：059-231-9640 Fax：059-231-9637

E-mail：yas@bio.mie-u.ac.jp

Date：
2-4 October 1997

Venue：
Kashikojima Plage
Ago-cho, Shima-gun, Mie, Japan

Presentators：
Japan；20 persons, Korea；13 persons
United Kingdom；1 person, other；4 persons

Open to the Public：
Registration and accomodation fees, 20,000 yen

Cordinator：
Sadao HOSHINO
Professor, Faculty of Bioresources, Mie University

Office：
1515 Kamihama, Tsu, Mie 514, Japan
Dept. of Anim. Sci., Mie Univ.
Prof. Y. KOBAYASHI
Phone 059-231-9640 Fax 059-231-9637
E-mail：yas@bio.mie-u.ac.jp

第4回3大学国際ジョイント・セミナー&シンポジウム1997
世界におけるアジアの役割——人口・食糧・エネルギー・環境——
The 4th Tri-University International Joint Seminar & Symposium 1997
The Role of Asia in the World——Population, Food, Energy and Environment——

日時：
1997年11月24日～1997年11月29日

場所：
三重大学
津市上浜町1515

招待講演者：
中国20名、タイ20名、日本20名、オーストラリア 若
干名、米国 若干名

参加費：
無料（航空運賃を含まない）

代表者：
三重大学生物資源学部教授 伊藤信孝

問い合わせ先：

〒514 津市上浜町1515
三重大学生物資源学部
電話：059-231-9597 Fax：059-231-9597

Date：
24th November 1997～29th November 1997

Venue：
Mie University
1515 Kamihama, Tsu, Mie 514, Japan

Presentors：
20 from China, 20 from Thailand
20 from Japan, Some from Australia and USA

Open to the Public：
Free of Charge (Air fee is not included)

Cordinator：
Nobutaka Ito
Professor, Faculty of Bioresources, Mie University

Office：
1515 Kamihama, Tsu, Mie 514
Faculty of Bioresources, Mie University
Phone：059-231-9597 Fax：059-231-9597

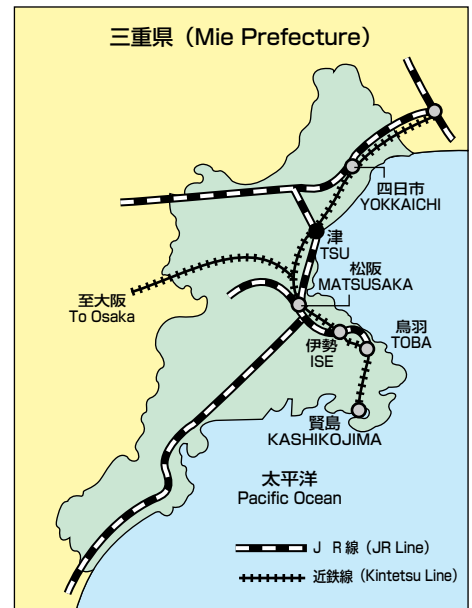
大学概要



- 所在地
〒514 三重県津市上浜町1515 ☎059-232-1211
- 学部・学科〔入学定員〕
人文学部〔305〕
文化学科〔115〕：社会科学科〔190〕
教育学部〔280〕
学校教育教員養成課程〔200〕：情報教育課程〔60〕
生涯教育課程〔20〕
医学部〔100〕
医学科〔100〕
工学部〔430〕
機械工学科〔90〕：電気電子工学科〔90〕：分子素材工学科〔105〕
建築学科〔45〕：情報工学科〔60〕：物理工学科〔40〕
生物資源学部〔296〕
生物資源学科〔296〕
計〔1,411〕
- 研究科〔入学定員〕
人文社会科学研究科〔10〕
教育学研究科〔41〕
医学研究科〔60〕
工学研究科博士前期課程〔76〕
博士後期課程〔12〕
生物資源学研究科博士前期課程〔88〕
博士後期課程〔12〕
計〔299〕
- 専攻科〔入学定員〕
特殊教育特別専攻科〔30〕
- 別科〔入学定員〕
農業別科〔30〕
- 医療技術短期大学部〔入学定員〕
看護学科〔80〕
- 職員のだ員
1,809人
- 外国人留学生数（19ヶ国）
209人
- 総土地面積
5,473,489m²

Outline of Mie University

- Location
1515 Kamihama-cho.Tsu-shi.Mie 514.Japan
- Faculties. Departments. Courses〔Capacity of Admission〕
Faculty of Humanities and Social Sciences〔305〕
Humanities〔115〕：Social Sciences〔190〕
Faculty of Education〔280〕
Training Course for School Teachers〔200〕：Course for Informative Education〔60〕：Course for Continued Education〔20〕
Faculty of medicine〔100〕
Medicine〔100〕
Faculty of Engineering〔430〕
Mechanical Engineering〔90〕：Electrical and Electronic Engineering〔90〕：Chemistry for Materials〔105〕：Architecture〔45〕：Information Engineering〔60〕：Physics Engineering〔40〕
Faculty of Bioresources〔296〕
Bioresources〔296〕
Total〔1,411〕
- Research Divisions〔Capacity of Admission〕
Graduate School of Humanities and Social Sciences〔10〕
Graduate School of Education〔41〕
Graduate School of Medicine〔60〕
Graduate School of Engineering Master's Program〔76〕
Doctor's Program〔12〕
Graduate School of Bioresources Master's Program〔88〕
Doctor's Program〔12〕
Total〔299〕
- Graduate Course〔Capacity of Admission〕
Graduate Course of Special Education (Majoring in Education for the Mentally Retarded)〔30〕
- Special Course〔Capacity of Admission〕
Special Course of Agriculture〔30〕
- College of Medical Sciences〔Capacity of Admission〕
Nursing〔80〕
- Number of Staff
1,809
- Number of Foreign Students (19 Countries)
209
- Total Land Area
5,473,489m² (=1,353acres)



平成9年9月

編集発行

三重大学広報委員会